

平成25年12月 日

浜田市議会議長 原 田 義 則 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

- | | |
|----------|-----------------------|
| 1. 期 間 | 平成25年11月23日(土)～24日(日) |
| 2. 研修内容 | 第65回全国人権・同和教育研究大会徳島大会 |
| 3. 研 修 先 | 徳島市 |
| 4. 調査経費 | 浜田市⇒徳島市 往復(貸切バス) |
| | 宿泊費 4,800円 |
| | 参加費 4,000円 |
| | 計 8,800円 |

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



第65回全国人権・同和教育研究大会 徳島大会

- 1 日時 平成25年11月23日(土) 13:00~16:00 (午後から参加)
平成25年11月24日(日) 10:00~15:30
- 2 会場 特別分科会 徳島市立文化センター
展示と交流 とくぎんトモニプラザ(徳島県青少年センター)他
- 3 主催 全国人権教育研究協議会他

4 内容など

- 全体会(時間の都合で不参加)
- 分科会(学校教育部会、社会教育部会)
- 特別分科会

①「全同教の遺産と教訓の発展を」

(財)奈良人権・部落解放研究所理事長 寺澤亮一さん

②「フクシマ原発災害の現状と人権問題」

福島県教職員組合放射線教育対策委員会委員 三浦俊彦さん

③「部落解放運動とともに」

阿南市人権教育協議会副会長 齒朶山 加代さん

④「子どもや家庭、地域とともに進めたい人権教育」

滋賀県人権教育研究会会長 宮治一幸さん

⑤マイノリティ文化・・・客体化へのアプローチ

NPO 法人ヒューマンネットとくしま理事長 辻本一英さん

●展示と交流

リバティおおさか(大阪人権博物館)、徳島県内の学校の展示等

5 研修の概要

市民グループ「べっぴんの会」のメンバーと一緒に、大会に参加した。

時間の都合で1日目午後からの参加となったが、特別分科会を、第2講を除き聴講した。全国から人権・同和教育の関係者が集まったので、会場の徳島市立文化センターは、大変混雑していた。

第1講の「全同教の遺産と教訓の発展を」では、法務省のスローガンが2005年から2013年までほとんど変わっていないという問題提起がなされた。「人権

教育」の本質について、もう一度よく考えなければならない。

第2講は、展示と交流の会場に行き、聴講しなかった。

第3講は、女性の発表であったが、「同和問題を人権問題の重要な柱とする。」ということを経験された。同和問題の位置づけについて、わかりやすく説明された。

第4講の講師は、現役の中学校の校長であった。小学校の校長時代の体験が非常に役立ったことや、「いじめ問題」については、「子ども」ではなく、「今の大人社会」から見つめ直していかないといけない、と言われたことが印象的であった。今まで受けたいろいろな研修と重なるが、より簡潔に具体的にまとめられた。大人同士または大人と子どもが、より豊かな関係を築いていくことは、まさに同和教育が大切にしてきたことと一致する。

最後の第5講は、地元の文化を伝承しておられる辻本一英さんのお話を伺い、三番叟まわしの実演も見る事ができた。この実演は、大変素晴らしく、迫力のあるものであった。消えかかったものを掘り起こし、次世代へ繋げていきたい、文化を消してはならない、という強烈な自負心を感じ取った。この第5講は、文化活動の先に部落差別意識の解消を見据えて取り組んでいる人たちの意気込みを感じ、特に印象深い研修となった。

6 所見

昭和47年（1972年）に教科書に同和問題が記述され、本格的に教育啓発が進められることになり、それより前の昭和44年（1969年）には同和对策事業が始まりいまに至っている。部落解放運動とも同和問題ともいわれる日本固有の差別問題について、歴史を学び市民が心から分け隔てなく暮らせる社会をつくる必要がある。

人権差別には、同和問題、障がい者、高齢者、子ども、女性、外国人、病気の人、刑を終えた人などたくさんあり、人は四六時中365日人権問題と接していることになる。つまり、人生のすべて、生活のすべて、一日のすべてで人権教育、人権を守る実践の現場と向き合っており、行政施策として差別解消の取り組みを進める必要がある。